

寄稿 若竹 千佐子 (作家)

# 歌にまつわる話

## 芥川賞に選ばれて

人生でさえ、不思議いなものですねえ。今日は朝から頭の中、美空ひばりの歌が回転している。

歌のワンフレーズが頭に浮かぶとそこだけ延々とエンドレスで流れ続けて自分でも止められないう。それで若い頃はほんとに困った。

今でも覚えているのが高校の学期末テスト。泉に沿って繋るボダイジュ。このフレーズがぼつと頭に浮かんで、一瞬自

分でも嫌な予感がしたのだった。予感的中してテストなのに一日中この歌が脳内を流れ続けた。

おかげで、泉に沿って繋る菩提樹の影で因数分解をし、現代文の長文読解をやる羽目になった。もうやめてと涙目でもお願いしても、脳内の歌は終わらない。止まったのは五時間目、テストが全部終わってからだだった。

対処しようにも人に相談することもできないし、そうしょっちゅう起こることでもないからまあいいかということまで、今に至っている。



この習性に長く付き合ってみると、どうも何か事が起こって心が動揺した時に、心の平衡を保つために脳内が鳴るとい

うか騒ぐらしい。私の書いた小説「おらおらでひとりいぐも」が芥川賞などと予想外というか予想以

上の事態が出来し、今パニック状態の脳が右往左往して、不思議いなものですね、を繰り返すのに違いない。

とはいえ迎え撃つ私も、昔の困った困っただけの私ではない、それなりの年の功を積んで、終わらない歌を何とか途切れさすために会話に持ち込むという手段を編み出した、つまり脳内に話しかけるようなことをする。

それでもだめなら、歌には歌で対抗する。私も負けずに歌うのである。歌うのは私の場合、この歌しかない。やるそレツツゴ、見ておれガバチヨの歌だ。と、どうい

うことが起きるか、脳内も同調して歌う。ついに一斉に唱和。そうならもう仕方がない。最後まで付き合えない。最後まで付き合えない。最後まで付き合えない。もっともこの歌は私の習性なんかよりもっと深

いところを流れる言ってみれば通奏低音、いつもすぐそばにある歌の気がする。正式名称は「ドン・ガバチヨの未来を信ずる歌」。ひよっこりひよつたん島初代大統領ド

ン・ガバチヨのテーマ曲。今日がダメなら明日にしましょ、明日がダメならあさってにしましょ、あさってがダメならしましょ、しましょ、ど

こまで行っても明日がある。この歌を歌い過ぎてガバチヨさんの心性私に乗り移ったのか、今では私は自他ともに認める大の楽家で、心の中かなりのおしゃべり。

「ひよっこりひよつたん島」が大好きだった。自慢ではないが、ひよっこりで歌われた歌は今でもほとんど誰んじしている。ニヒルなダンディの口笛だって吹ける、かな。あれからもう五十年超。わが心のドン・ガバチヨを懐かしくエッセイに書く日が来るなんて夢にも思わなかった。人生でさえ、不思議いなものですね。(わかたけ・ちかこ)「おらおらでひとりいぐも」で第158回芥川賞



芥川賞に決まり、笑顔で記者会見に応じる若竹千佐子さん—東京都千代田区で16日夜、和田大典撮影